

言葉がもたらす付加価値を最大化する。

Enhancer - 新しい時代のランゲージ・デザイン

サービス紹介資料

訳出の不確実性を排除し、メッセージをオーディエンスへ 確実かつ最大効率で届けるプロフェッショナル・サービス

株式会社キャタル・コミュニケーションズ

© Catal Communications Inc. All Rights Reserved.





通訳は高度な専門職でありながら、その成果は現場条件や瞬間的判断に 左右される「不確実性」を抱えています。

物理的な限界と パフォーマンスの揺らぎ

通訳は、聞いた内容を数秒で 取捨選択し再構成するため、 情報の一部が削がれ、意味が 丸められ、微妙なニュアンス が失われてしまうという限界 を抱えている。

ラストワンマイルにおける不確実性

発話の意図、間、ニュアンス、 会場の空気といった要素を的 確に汲み取り、相手に「届く 形」にする最後の工程は、人 間の判断が大きな役割を担う

運用上の問題

多くの企業では、通訳が「最後に手配するオプション」として扱われている。入念に準備されたスピーチであっても、本番直前に原稿を受け取る通訳者は十分な準備ができない状況がある

伝達効率の低下

「翻訳」は元の言語構造(日本語の慎重さや回りくどさなど)を色濃く引きずり、英語話者には芯が弱く聞こえることがある



こうした構造的要因によって、メッセージの伝達品質は「70~90%の範囲」で揺らいでいます。 この「不確実性」こそが、私たちが解決すべき本質的な課題です。



翻訳を介在させることなく、ターゲット言語でメッセージを設計・制作することにより、最大の伝達効率を確保します。

従来の通訳運用



- ✓ 同時通訳の即応性に、主要メッセージ の成否が依存する。
- ✓ 70~90%の不確実な揺らぎが許容される。

新サービス「エンハンサー」



- ✓ ラストワンマイルを設計可能な領域として再定 義し、品質のコントロールを確立する。
- ✓ 「事前に合意された品質水準(100%)を 安定的に供給する。





言葉の橋渡しだけでなく

「創る」ことができる

それが「コミュニケーション・エンハンサー」です。





文化への感度

伝わることへの執念

構成力

クリエイティビティ

語学力



エンハンサーは、企業のメッセージ伝達効果を最大化し、コミュニケー ションそのものを強化するプロフェッショナル・サービスです。

Enhancer

こ コンテンツ設計

ヒアリングに基づき**核となる主張**を抽出。ター ゲット言語圏で効果的な**論理展開・レトリック・ 比喩**に最適化する。

POINT:メッセージの構造的強化

翻訳調を排除し、ターゲット言語での原稿をゼロから執筆。ネイティブの聴衆に対して自然に響く表現に仕上げる。

POINT:伝達効率の高い原稿の作成

○ ボイス&デリバリー

声質、間(ポーズ)、強調箇所の設計。プロスピーカーによる発話の**代行**、または経営層に対する英語指導(コーチング)を実施する。

POINT:説得力と訴求熱量の最大化

□ 音声制作

事前収録(オーバーダブ)や合成音声技術(本人 声の活用を含む)選択肢を提供し、イベント品質 の音声を準備する。

POINT:運用上の柔軟性と品質担保

当日運用と通訳の連携

基調講演などの重要パートは「完成品」として配信し、**質疑応答や自由討議パートは**ライブ通訳に切り替えて対応する。

POINT:ハイブリッドな運用体制の実現

^{CAI)}×Ω AIの統合活用と専門家の監修

要約、言い換え、音声合成などにAI技術を活用。 ただし、最終的な品質保証は、**バイリンガル人材** による専門的な監修の下で遂行される。

POINT: AIによる効率化と人間の感性の融合



リスク最小化

通訳の偶然性を排除し、重要メッセージ を確実に届ける仕組みを構築。

- ✓ 準備段階でメッセージの品質を保証可能
- ✓ 不確実性や内容の微妙なずれが放置される ことを防ぐ



2 メッセージ効果の最大化

英語での説得力を設計段階から担保し、 文化に合った表現で「刺さる」メッセー ジを創出。

- ✓ すべての言葉を、目的・受け手・文化に合 わせて設計
- ✓ 翻訳調を排し、英語圏で「刺さる」論理展 開、言い回し、比喩に最適化
- ✓ 熱意、リズム、抑揚といった要素を届ける ことができる

3 運用柔軟性

ライブ、収録、合成音声、またはそのハイブリッド方式から最適なデリバリーモデルを選択可能とする。

- ✓ 基調講演など「外してはならない部分」は 「完成品」として確実に届ける
- ✓ 自由討議や質疑応答、即興のやり取りと いったライブのダイナミズムが求められる 部分は、これまで通り通訳が担う
- ✓ 本人声の活用を含む合成音声も使用可能







最重要メッセージが「外せない」場面において、一貫した品質を 保証します。

事例1

経営トップの グローバルキーノート

投資家、メディア、顧客向けに 揺るぎない説得力をもって発信 することを可能にする。





事例2

大型カンファレンスの 基調講演

完成音源とライブ通訳のハイブ リッド運用により、確実にメッ セージを届ける。



事例3

プロダクト発表/ メッセージ動画

事前収録プロセスを通じて「訴求力の高い」英語に磨き上げ、 世界中の視聴者に効果的に訴求する。



事例4

採用ブランディング

海外候補者向けに、企業の価値 観とカルチャーを英語で最適に 設計し、人材獲得戦略に貢献す る。



品質目標(100%)達成に向けた、メッセージ設計から運用までを 一貫して支援いたします。

ヒアリング	目的、聴衆、成功指標(KPI)の定義と合意形成	1週間
メッセージ設計	論点設計、英語骨子、トーン&ボイスの決定	1週間
スピーチ制作	原稿、スライド、原音収録計画の作成	2週間
ボイス制作	スピーカー・通訳者の選定/本人コーチング/音声の収録	1週間
事前検証と改善	内容、発話、音質の 最終検証(バイリンガル専門家による監修)	1週間
本番運用	完成音源の再生と質疑応答パートの通訳、または完全なライブ対応	当日
振り返り	効果測定と次期改善点のフィードバック	





通訳は依然として極めて重要な役割を担います。 通訳とエンハンサーは異なる領域を担い、補完し合う関係にあります。

エンハンサーの役割

確実に伝えたい領域

基調メッセージ、声明など、**外してはならない 要所**を確実に設計し、提供する

補完関係

通訳者の役割

生のやりとりが必要な場

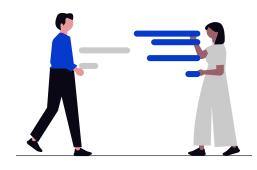
自由討議、質疑応答、即興のやり取りなど、 ライブのダイナミズムを担う





私たちがこれまでにコミュニケーションサポートをしてきた著名人 (-部例)

稲盛和夫 イーロン・マスク マドンナ 安倍晋三 菅義偉 岸田文雄 鳩山由紀夫 前澤友作 安藤忠雄 隈研吾 アル・ゴア(元米国副大統領・ノーベル平和賞受賞者) スティーブン・R・コヴィー(「7つの習慣」著者) ロバート・キョサキ(「金持ち父さん 貧乏父さん」著者) アンソニー・ロビンズ(モチベーショナル・スピーカー)



2009年の創業以来、キャタル・コミュニケーションズは数々の社内外向けスピーチ、メディア会見、政府公聴会、投資家向け会議、数千人単位のセミナー等、重要な場面での通訳を一任されてきました。

通算10,000時間以上の同時通訳の経験から培った独特な視点と技術で、効果的且つ差別化されたコミュニケーションのお手伝いをしています。

キャタル・コミュニケーションズは一流大学のバイリンガルの帰国子女が教師をつとめる渋谷の英語塾「キャタル」から誕生し、そのメンバーも多くが海外経験の長い帰国子女です。文化の違い、立ち振る舞いの違い、表現の違い、文章の書き方の違い等を、すべて考慮したうえで「訳す」だけではなく「伝わる」ことを最優先とし、グローバルビジネスのすべての局面において新たな付加価値の創造を目指しています。

「エンハンサー(Enhancer)」についてのご相談・デモをご希望の方は、 お気軽にお問い合わせください。

既存の通訳体制と組み合わせた「ハイブリッド運用」も可能です。 まずはデモンストレーション又はパイロット導入をご検討ください。

貴社のグローバルコミュニケーション戦略に関するご相談や、 目的・聴衆層・スケジュールに応じた最適な実施計画のご提案も承ります。

お問い合わせ